

2017年度 委員会事業報告書

副理事長兼55周年実行委員長 服部高志

LOMの魅力発信委員会委員長 永坂規明

1. 委員会開催日 (14回)

1/13	2/20	3/1	3/15	4/20	5/12	6/7
7/26	8/30	9/22	10/11	11/5	11/13	12/10

2. 事業報告

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ① 55周年式典(3月例会)の担当 | 3月27日 |
| ② クリスマス家族会・卒業生を送る会(12月例会)の担当 | 12月1日・12月3日 |
| ③ JCニュースの編集と発行 | 通年 |
| ④ 卒業生記念品の選定 | 12月 |
| ⑤ 総会・例会・各種事業の記録保管の担当 | 通年 |
| ⑥ LOMホームページ運営の担当 | 通年 |
| ⑦ 交流に関わる事業 | 9月2日 |
| ⑧ JCI世界会議の担当【オランダ】 | 11月5日～10日 |
| ⑨ JCIASPACの担当【モンゴル】 | 6月7日～10日 |
| ⑩ 日本JC京都会議の担当 | 1月19日～22日 |
| ⑪ 新入会員の拡大 | 通年 |
| ⑫ 新入会員の育成 | 通年 |

3. 委員会メンバー

永坂規明 山田佳広 山守正作 秋田真吾 浅場雄太

4. 反省点及び申し送り事項

当委員会は、初めての試みとして各行政の都市開発の方や新聞記者の方々と関わることで、新聞掲載やチラシの広報など例年よりも柔軟に対応していただくことができました。各行政の方々も、想いはあっても表現の仕方が分からないという方々が多かったイメージがありました。我われ青年会議所がきっかけをつくり、まち全体が一つになれば海部津島地域も良くなると確信いたしました。来年以降もこのような交流の場を設け、年数を重ねていただくことで青年会議所とのつながりも強固なものになっていくと感じました。

また、現役メンバーと先輩との交流において、普段あまり関わることのできない先輩方にも参加していただくことができました。メンバーは一人ひとりに挨拶し、青年会議所の現状を理解していただくことで本年度の事業にもご協力いただけたと思います。

3月例会を迎える前に周年未経験のメンバーが多い現状で、第50代理事長の山崎拓史先輩に周年事業の意味と価値を話していただくことで、周年事業の重要性や空気感などを学ぶことができました。また、55周年実行委員長による近5ヶ年活動報告は非常に多くの方からお褒めの言葉をいただきました。式典に参加していただけた方々には、海部津島青年会議所の今後のビジョンをしっかりと理解していただけたと確信いたしました。ただ、このビジョンをLOMメンバー全員に浸透させることができませんでした。式典前に全メンバーで共有する時間を設ける場が必要であり、想いとビジョンを共有して式典に臨む必要があったと痛

感いたしました。参加された方々には日頃の感謝と今後の活動の理解をしてもらうことができ、素晴らしい式典と祝賀会を開催できました。ただ、こういった大きな事業を開催する場合、多くのゴミが出ます。処分費や片付け予算も組んでおいた方がいいと感じました。例会は開催されるまでの準備はしっかり行いますが、終わった後のことまで考えられていない場合が多いです。このような細かい部分も60周年にしっかりと引き継いでいきます。

大嶋啓介氏にご講演いただいたことで、メンバーには夢や目標の大切さを理解していただけたと考えます。また、メンバーのポテンシャルを引き出し、卒業生の夢を全力で応援することで卒業生の想いをしっかりと受け継ぐことができました。仲間の夢を応援し、自分の夢を応援されることがエネルギーの源でありLOMの結束を深めることができると考えます。また、大切な方へ感謝を伝えることで、ありがとうが溢れる空間を創りだし、今後の活動への理解をしていただける例会を開催できました。

人との出会いが自分の可能性に気づかせてくれ、いつも支えてくれている方々へ感謝を伝えることで素直な自分になれる。改めて、我われは地域から必要とされる団体であり、この海部津島地域にとって必要な人財であると確信いたしました。

以上を反省点及び申し送り事項とさせていただきます。

5. 委員 長 所 見

まずは、周年事業という担いの大きい役割を与えていただいたことで、何事も挑戦するという大切さに気付かせていただけました。55周年記念式典・祝賀会では今まで自分が経験したことのない規模の事業を担当させていただき、多くの方々の協力の下、無事に終えることができました。この経験を5年後の60周年の時に必ず活かせるように、若手メンバーに想いを受け継いでいきます。そして、先輩方や各種機関の方々のつながりも大切にしていくことで、海部津島青年会議所の可能性も広がると感じます。つながりや感謝を伝えることの大切さを、事業を通じて勉強させていただきました。青年会議所だけがまちを良くするのではなく、一人でも多くの人を巻き込むことが必要だと痛感いたしました。12月例会は、自分がやりたい例会を全力でやると決めていました。しっかりとテーマを決めて、メンバーや参加してくれている方に何を持ち帰っていただくのが重要でした。基本方針に記載した「夢と感謝」を伝えるためには2部構成にすることが最適だと判断しこのような形をとらせていただきました。幸せな家庭を築くために、絶対に大嶋啓介氏の話メンバーに聞いて欲しいと思っていました。講演会で聞いたことを実践してくれているメンバーがいると聞きました。例会を通じて、家庭も地域も同じだと感じました。魅力のある輝いた人財が地域から必要とされ、それが自分の父親であれば子供は尊敬する。海部津島青年会議所もこのような人財が集まった団体にできれば、もっと地域の方に魅力を伝播できると確信いたしました。これからも魅力ある青年会議所となるよう邁進してまいります。一年間ありがとうございました。

6. 収 支 決 算

収入の部				支出の部			
予 算		決 算		予 算		決 算	
事業費	306,404	事業費	296,692	③	143,100	③	143,100
				④	100,000	④	90,288
				⑤	3,304	⑤	3,304
				⑥	60,000	⑥	60,000
合 計	306,404	合 計	296,692	合 計	306,404	合 計	296,692